

第 1 回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：平成 28 年 8 月 29 日（月）午後 1 時 25 分から午後 3 時 25 分まで

開催場所：別海町役場 2 階 201 会議室

出席人数：8 名（欠席 4 名）

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 昨年度のふりかえり
- 3 平成 27 年度別海町自治基本条例運用状況報告書について
- 4 次回以降の開催内容についての協議
- 5 閉 会

1 開 会（司会 角川主幹）

2 昨年度のふりかえり

- ・事務局より、平成 27 年度に開催した自治推進委員会の内容についてのふりかえり。

3 平成 27 年度別海町自治基本条例運用状況報告書について

- ・「広報閲覧形態の改善」に関し、昨年 7 月から町内コンビニ等に広報別海を設置しているほか、役場本庁舎や各支所、各連絡事務所、各公民館、図書館にそれぞれパンフレット台を設置し、別海町に関わる情報などを閲覧出来るよう整備したこと。また、4 月からは、帯広市に本社のある東洋印刷株式会社「北海道の広報まるごと検索くん」というサイトにおいて、イーパブ版という電子書籍形式で閲覧できるようになっていることを説明。

委員

町民参加機会の実施概況において、意見交換会の実施状況の件数が平成 25 年度を境に急激に減少しているが。

事務局

この意見交換会は、まちづくり懇談会やミルクミーティングの他、各所管で行っているもの。例えば議会報告会や、生涯学習課所管の女性団体連絡協議会など、役場として所管課に調査し、取りまとめた結果となっている。

平成 27 年度だけの話をすれば、意見交換会毎の参加人数が少なかったことなどが要因として挙げられると思う。

委員

いつも同じパターンであれば、参加も必然的に少なくなるのではないか。

例えば文化連盟や体育協会などとの意見交換といった、もう少し具体的なことのほうが建設的な意見が出るのではないだろうか。

委員長

議会報告会やまちづくり懇談会では、その地域での発言者も大体決まっているし、行政からの話も一般の人には面白くないというのも正直ある。そういった部分も参加者が少なくなる要因かもしれない。

委員

例えば誰かの講演も聞けるような、行けば少しお得感のあるようなものでもいいのかもしれない。また、参加しにくい雰囲気もあるので、もっと参加しやすい形だと良いと思う。

開催場所にしても、別海・尾岱沼・西春別の主要地域であり、その中間にある地域からでは参加が難しいこともある。もう少し小さい単位のことでも考えてもらえればと思う。

委員長

年度ごとに場所を変えての開催でも良いのかもしれない。

事務局

場所については、広くそれぞれの地域で開催できればそれが一番良いのだが、中々それが難しく、主要3地区でできるだけ多くの意見を拾いたいという状況となっている。

それを補完する制度として、ミルクミーティングなどの設置もしている。

委員

まちづくり懇談会でも、ひな壇に理事者や幹部職員がずらっと並んでいて、圧迫されるというか、意見を出しづらい雰囲気がある。全て答えられるようにしようとするのではなく、2~3人くらいで行って、答えられないときは事後回答にするなどで良いと思うのだが。

委員長

行政側としても、何でも答えられるよう全員揃えるには日程調整も大変だろうし、それを年に何回もやるとなっても困るし、やり方を少し考えたほうが良いのかもしれない。

委員

この意見交換会というのを全部無くして、年に1回各地域をまわることは可能ではないだろうか。私の地域では年に一回、町に陳情へ行くのだが、こちらから出向くのではなく、逆に地域に出向いてもらって、どんな要望にも質問にも答えると。若い奥さん方も色々凄い意見も持っているが、中々その意見を出せる場が無いというのが現実である。

委員

報告会というのは、行く人が受け身になるが、そういう場所だと自分たちが発信の場になるので、参加の仕方によって気持ちの持ち方というのも違ってくると思う。選挙年齢も18歳になったということもあり、若い世代を如何にしてそういう場所に参加してもらうかということも大事になってくるし、老若男女色々な世代が集まれる場があれば良いと思っている。そういう力が、別海をより良いまちにしていくのではないだろうか。

委員長

これらの意見というのは、今までやってきたものを根本的に変えてほしいという意見である。そのほうが効果があるだろうということですから、これらはポイントになるような気がします。

委員

最近は何かにつけて、ホームページを見てくださいとあるが、慣れていないと検索だけで時間がかかってしまう。ホームページの活用はあっていいが、それに頼りすぎてはいけないと思う。また、何でもホームページに出せばいいということでもないし、新しいニュースもホームページの上に早く掲載しなければ、緊急性も何もないのではないか。その辺のホームページの作り方も問題かと思う。

委員

ホームページは何人かで担当し、そこへ記事を持って行って、担当が当てはまるページに更新していくというようなことをやっていかないと、検索しづらくなったり、余計なデータがどんどん増えることにもなる。統一性を持たせるには、しっかり担当を置くべきだと思う。

委員

アンケートの回収率についても非常に問題。最近では相手のことを考えず、自分の思いだけでつくられたアンケートも多いので、出された結果を集計しただけで良いのかと思う。

委員長

以前、教育委員会で行った学校の統廃合に係るアンケートをPTA関係者に出したところ、別海の小中学校を統合してほしいという、想定外の結果が出てきた例もあり、そういった意味ではアンケートも勝手に考えたものとは違うなという部分もある。

委員

アンケートの回収率が20%など低い中で、その意見を尊重するのは果たしてどうなのかと思う。

委員長

ものによってということもあるが、一概に全部が低いということでもない気はする。

委員

回収率を上げるのであれば、聞き取りが一番良い。

委員長

昨年はいなかったようだが、委員を一般公募してもあまり出てこないものなのか。

事務局

平成27年度については公募案件がなかった。任期の関係もあり、委員さんの入替えを行う際に、公募を行うこともある。ただ、必ずしも委員会等を設置するときに委員公募をするということにもなっていないので、その委員会に係る知識等に長けた委員を必要とする場合は、そういった方を団体代表者含めお願いするという方法も中にはある。

4 次回以降の開催内容についての協議

・昨年度、「何か町の中の支援グループができてもらえるような方策を考えられるといい」といった意見もあったように、例えば、そういった小さな団体が活動を始めるうえで、或いは継続していくために、この公募型補助金はひとつの大きな財源にもなる。このことから、この制度をこれからも持続させていくためには、どうすればより使いやすくなるのか。また、現状何が不足と思われるか、といった部分について検討する必要があると考えており、これらのことを踏まえ「次回以降の開催内容」について、次のような提案をした。

- 補助区分の見直し
- 補助対象経費の緩和
- まちづくりフォーラムに係る開催内容の再検討

委員長

委員さんの中には、この公募型補助金の評価委員をやっている方もいるので、そのなかで感じていることなどあれば、聞いてみたいのですが。

委員

この補助金の活用は3回が限度であり、それ以降どのように団体が発展しているのか、どこにも公表・公開していないので、どのようになっているのか。展示でもいいしパネルディスカッションでもいいので、何らかの形で知りたいと思う。そういうのがあると、新しく何かをしようとする人達の参考になるのではないか。

委員長

3回の活用が終わってしまうと、それ以降はこの補助金はもらえないので、そこが引っかかるといえば引っかかるが…。

委員

他のかたちでもらえる補助金というのはあるが、まずはスタートの3年間ということ。

事務局

役場の補助金だけでなく、例えば財団法人からの助成金というのも制度としてあるので、そちらのほうを活用している団体も、調べればあるのかもしれない。

委員

今、私のやっている団体は、この補助制度ができる前後くらいに、農協から補助金をもらって活動していたため公募型補助金は活用していないが、そういった団体も発表対象としては良いのかなと思う。

委員長

補助区分の見直しということで、特に「担い手支援型補助金」と「地域づくり補助金」の違いが分かりづらいということだが。

事務局

利用実態としては、それぞれの申請団体が補助区分に応じて、団体の判断で補助区分を選び、申請をしているという状況になっている。その際、どちらの補助区分にするかの判断がしづらいことも、本補助金の活用が増えないひとつの要因になっているのではと考えている。どちらの事業内容の説明を読んでも、ひとつの事業がどちらにも読み取れるというのが現状である。

委員

内容説明には、「町民主体」や「町全体」といった文言が出てくるが、これは別海町全体を指しているという認識で良いのか。そういうことであれば、ひとつの地域が町全体に向けて宣伝などしない限りは、この補助金は利用できないということか。

事務局

そのとおりである。「地域行事」にこの補助金は使えないが、その行事が町全体にどう波及していけるかというのがポイントとなる。

委員

一地域のことでないので、このように言われてしまうと中々補助金は使えないのでは。

委員

「まちいきいき支援型補助金」であれば、1/2 補助の上限 100 万円で、例えば 200 万円かかる事業であれば、自己負担で 100 万円は集めなければならない。補助を受けるために、まずその自己資金を集めなければならないというのが結構ネックな部分もある。

委員長

公募型補助金とは別に、毎年申請可能な補助金もあったと思うが。

事務局

一般型補助金というのもある。これは補助率が 1/2、上限額 10 万円というものだが、特定のものに限ってということで、事務局が申請時に判断をしている。

委員長

いずれにしても、事務局としてはこのような事項を委員会で検討していければということである。ここを変えたらいいのではないかと、というような部分を意見書なりにまとめ、あとは町長や行政が判断をするということになると思うが、次回以降の検討事項については、これらをテーマとして進めていくことでよろしいだろうか。その他、何か他にやってほしい事項等あれば、次回までに考えていただければと思うが、よろしいだろうか。

委員異議なし

また、まちづくりフォーラムに係る開催内容の再検討についても、検討事項として含めることとしたい。

その他、皆さんからご意見などあるだろうか。

委員

他の地域において、町内会や団体がどういう行事をしていてどんな運営をしているのか、というのを知ること、この補助金の活用にも結びついていくのかなと思う。ここの地域でやっている行事がうちでは何故できないのか。それは事務局を担う方がこの補助金を使うのが大変だから、ということもあるかもしれない。そういった、各地域の現状を把握するというのは大事だと思う

委員長

そういったものをまとめてほしいということか。

委員

できるのであれば、そういうことをしてもらえればと思う。事務局の大変さを知ってもらえれば、そういった理由で補助金が使えないといったものも出てくると思う。

委員長

各地域で、どのような行事をどんな団体が主催しているというようなことが見えてくると、うちの地域でもやりたいなと思うものがあるかもしれない。例えば、昨年に釧路わっとうに行ったときも、NPO 団体を一冊にまとめた冊子を作成していたが、それを活用することで町民自らが進めていけるものも見えてくる。それと同じように、各地域がやっていることを自治推進委員の皆さんも把握することで、この組織はこの補助金に乗っかってもいいのではないかと、というようなことが言えてくる。ただ応募を待つのではなくて、こちらから声をかけられるようなものに繋がっていきたいという意見である。

事務局

公募型補助金に関しては、基本的に町内会活動は該当にならないということは知っていらっしやと思うが、それは何故かという、総務課から交付金が出ているため、二重補助になってしまうからである。必ずしも、この公募型補助金とは結びつかないと思うが、こういった活動が地域でされているということを認識するためにも、資料の作成は検討したいと思う。

委員長

各町民が、「こういうこともできるはず」という意欲に繋がるはず。

委員

別海町はとにかく広いので、町全体で何かをやるということには中々ならないと思う。自分たちも、尾岱沼のことや上風連のことを中々知らない。別海市街地でなにかやるとしても、それを知っているのはその近辺の人たちだろうと思う。

委員長

別海町全体を対象としたものは、やはり基本的に意味は無いと思うし、人数の少ない集落だからできるというものもたくさんある。

事務局

全ての会を網羅するとなれば、別海町内には相当数あると思われるので、主要地区のみに絞って資料を作成するようなかたちになるかと思う。どこかで全体を押さえていけばいいのだが…。

委員

町内会の事務局も、この別海ほど色々な窓口を持っている町内会はないのではないかと思う。きっとその中には、町内会以外に関わっているものも、ある程度網羅していると思うので、主要3地区のほか、上春別や上風連も集約はできるものと思う。何かひな形をつくってもらって、年間の主な行事や事務局体制、役職体制、会費や予算など項目をつくってもらえれば、後は総会の議案などあれば分かると思うので、そのようにして町内会に依頼していただいてもいいかもしれない。

委員長

昨年度の矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民大会で、まちづくり活動団体に関する展示がされていたが、難しいものではないと思うので、あのようなものを一覧にして出してもらえればいいなと思う。

5 閉 会